

ロータリーの過去40年の変遷とこれから

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotary 

ロータリーの歴史を40年ごとに分けて考えてみよう

黎明期と初期ロータリーの拡大期 1905年～1944年

I 黎明期(1905年～1909年)⇒閉鎖的な社交クラブ

目的 1. 会員の職業上の利益の促進

- ・ 一業種一会員制⇒物質的相互扶助

2. 通常、社交クラブに付随する良き親睦と
その他の時に必要と思われる事項

- ・ 定期的な例会⇒親睦

新たな目的 ※ドナルド・カーター事件

3. 奉仕の推進

- ・ 奉仕活動の実践⇒社会との接点⇒拡大への布石

初期ロータリーの発展

Ⅱ 初期ロータリーの発展と理念の確立(1910年～1944年)

○ ロータリーの発展

1910年 全米ロータリークラブ連合会誕生

→国際ロータリークラブ連合会に改称(1912年)

→国際ロータリー(RI)に改称(1922年)

年	国数	クラブ数	会員数
1910	1	16	1,085
1920	12	516	45,000
1930	59	3,177	144,500
1940	87	4,967	209,887
1944	69	5,174	209,689

ロータリーの理念の確立

○ ロータリーの理念の確立

- ・ ロータリーのモットー(1950年に公式採用)

One profits most who serves best (シェルドン)

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

Service above Self (コリンズ)

超我の奉仕

- ・ ロータリー倫理訓(道德律)⇒ロータリーを職業倫理を向上させる運動としての位置づけ

※ **米山桂三氏(米山梅吉翁の三男)** ロータリー運動は社会・歴史的に見ると、**初期の資本主義の欠陥、すなわち道德の欠如を救おうとする**人間の出現という歴史的偶然の交錯したところに生まれた運動である。

- ・ **Talking Knowledge of Rotary (ロータリー通解) ガイ・ガンディカー**
「ロータリーはうわべだけの人間を作るものではなく、人間の体質改善を行うものである。
ロータリーの内部で体験を積むにつれて、人はロータリアンになる」



アル・カポネ

1920年～シカゴ

親睦と物質的相互扶助を
目的とした社交クラブ



親睦と奉仕



倫理運動

決議23－34(社会奉仕に関する1923年の声明)

■ 1923年、セントルイス大会で決議23-34を採択

ロータリー理念、原則の確立⇔理論派と実践派の対立の回避

- ・ 理論派 奉仕の心を形成することがロータリー運動の本質→個人奉仕(individual service)
- ・ 実践派 奉仕活動の実践こそがロータリーの使命→団体奉仕(collective service)

- ・ ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務 及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。
この哲学は奉仕―「超我の奉仕」―の哲学であり「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。
- ・ 奉仕する者は行動しなければならない。ロータリーとは単なる心構えのことを言うのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に移さなければならない。
- ・ ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。
- ・ ロータリーは一つの人生哲学である
利己的な欲求と他人のために奉仕したいという感情の間に存在する矛盾を和らげるのが、ロータリーである。
- ・ 奉仕の実践
- ・ 個人奉仕と団体奉仕の両輪

※1917年 ライオンズクラブ設立 標語 We Serve

ロータリーの組織の確立

○ ロータリーの組織の確立

- ・ 1915年 **標準クラブ定款と模範クラブ細則を採用**→クラブ管理の標準化
地区制度・ガバナー制度の制定
- ・ 1917年 国際大会の6月開催開始
- ・ 1920年 ロータリー徽章採用
- ・ 1927年 **4大奉仕**への転換
- ・ 1928年 ロータリー財団設立
- ・ 1929年 ロータリー旗規格確定
- ・ 1934年 規定審議会発足
→1998年 RIの唯一の立法機関となる
- ・ 1935年 現在の「ロータリーの目的」の原型ほぼ完成
→目的の明確化



世界平和への礎

○ 世界平和への礎

- ・ 1940年 RIハバナ大会で「人間尊重を求める」決議案を採択
→国連憲章のもととなる
- ・ 1942年 RI第13地区の大会で21カ国政府を代表する関係者を
ロンドンに招待して教育文化交流機関について協議する会議を開催
⇒後にユネスコとして成立
- ・ 1943年 四つのテスト正式採用
- ・ 1945年 49人のロータリアンが国連憲章起草に参画

日本の初期ロータリーを象徴する一枚の写真



ポール・ハリス来日

昭和10年 東京

鹿島精一 小林雅一

宮岡恒次郎

米山梅吉

ポール・ハリス

徳川家達

斎藤 實

ボブ・ヒル

ロータリーの急激な発展と活動の拡大期

ロータリーの急激な発展と活動の拡大期 1945年～1984年

Ⅲ ロータリーの急激な発展 平均して10年で18万人の会員増

- ・ 1949年 一都市一RCの完全廃止

年	国数	クラブ数	会員数
1950	82	6,834	329,342
1960	113	10,226	480,569
1970	146	13,853	660,259
1980	152	18,252	851,547

ロータリーの活動の拡大

IV 活動の拡大

・ 1946年 ポール・ハリスの遺言

葬儀の献花に代えて、そのお金を国際理解推進のために財団に送ってほしい。

ロータリー運動は善意を生産する母体である。その善意の普及を通じて、戦争勃発を予防することは私の念願だったが、その願望は遂げられないままに第二次大戦が起こり、悲惨な形で終わった。今度、大戦が起こったら、地球は壊滅するだろう。

だから第三次世界大戦は何としても、ロータリーの善意の提唱を通じて予防しなければならない。

・ 1947年 ポールハリス記念基金設置⇒翌年7月までに130万ドル以上の寄付

→ロータリー財団の基金となり、にわかにロータリー財団が脚光を浴びる。

最初の財団プログラム 高等研究奨学金⇒国際親善奨学金 3万人を越える奨学生



ロータリーの精神である『Service above Self
超我の奉仕』という言葉は、私の心に深く浸透し、
いまに至るまで、私を導いていると感じます。

緒方貞子元国連難民高等弁務官



中満泉国連事務次長

財団の基金による国際奉仕プログラムの発展

- 1962年 世界社会奉仕プログラム(**WCS :World Community Service**)の導入
⇒国際奉仕活動の本格化
- 1965年 **マッチング・グラント**(国際的な人道プロジェクト)
※クラブと地区のプロジェクトに補助金を提供する財団初のプログラム
GSE(Group Study Exchange)プログラム(研究グループ交換)
⇒職業と技術研修のための双方向プログラム
- 1978年 **3Hプログラム** 3H⇒Health Hunger Humanity
- 1979年 3Hプログラム第一号として、フィリピンの600万人以上の子供たちにポリオ予防接種を実施



フィリピンでの3H活動(尼崎西RC)

青少年奉仕プログラムの拡大

○ 青少年奉仕プログラムの拡大

- ・ 1952年 東京RCが**米山記念奨学制度**立案(翌年より実施)
- ・ 1962年 最初の**インターアクト**クラブがメルボルンに設立され、世界各国に拡大
- ・ 1968年 **ローターアクト**計画発表
- ・ 1969年 青少年活動週間制定
- ・ 1971年 ロータリー青少年養成プログラム(**RYLA**)を公式採用
- ・ 1974年 **青少年交換**プログラム開始

※1980年 「道徳律」を完全削除

1984年 決議23-34を手続き要覧から削除→1986年 復活

ロータリーは狭義の倫理運動から多角的な奉仕活動へと移行

ロータリーのステージの拡大

- ①グローバル化による人道的国際奉仕の拡大
- ②多大な資金が必要となり、ロータリー財団の役割が拡大
- ③青少年奉仕活動の拡大

ロータリーの会員数の推移

ロータリーの変革 1985年～現在

I 会員数の推移 1985年～2005年 会員数の拡大に陰りが見えだす

年	国数	クラブ数	会員数
1985	159	20,838	961,256
1990	167	24,419	1,091,056
1995	185	27,026	1,190,102
2000	195	29,728	1,193,461
2005	168	32,507	1,224,297

2006年～2025年 会員数が減少に転ずる

年	国と地域	クラブ数	会員数
2010	200以上	34,103	1,227,563
2015	200以上	35,109	1,235,536
2020	200以上	36,158	1,217,616
2025	200以上	36,531	1,163,048

国際ロータリーの変化(1)

年代	ロータリーの改革 (戦略計画)	会員基盤の多様性	例会の柔軟性
1981年～1990年 1986年 世界のロータリアン100万人、 日本10万人を突破	1987年 長期計画委員会 (後の戦略計画委員会)	1987年 米国連邦最高裁判所 性別を理由 に女性を会員として拒否すること はできないという判決 1989年 女性の入会を認める	1989年 ロータリー年度に2回まで取りやめ ることができる
1991年～2000年	1992年 会長エレクトがPETSと地 区協議 会に出席することを義務とする		1995年 メークアップ期間の延長 (例会の 前後2週間) 1998年 クラブ理事会承認の奉仕プロジェク トへの出席をメークアップと認める
2001年～2010年 2003年 会員数ピーク 1,243,431人	2002年 DLPの採用 2004年 CLPの推奨 2010年 戦略計画 「中核となる価値観」 発表	2001年 1業種1会員制変更 同一職業分類5名以内、51名以上 のクラブは10%まで クラブが性別を一つに限定すること を禁止する 2007年 会員資格の変更 (財団学友・ボラ ンティアリーダーの入会を認める)	2001年 ロータリー年度に4回まで取りやめ ることができる メークアップの大 幅拡大 2004年 相互参加型のウェブ会合に30分参 加した場合には例会出席と認める
2011年～2026年 2026年4月24日 1,170,178人	2013年 「未来の夢計画」スタート 2016年 規定審議会での大幅な 改革 2017年 新しいビジョン声明 2018年 新戦略計画 2019年 ローターアクトクラブをRIの一員 とする 2019年 DEI声明 2020年 SRF構想発表	2013年 仕事を持たない人も正会員となる ことを認める 2016年 会員身分の条件を簡素化 ローターアクトとロータリー学友 に会員となる資格を与える 2017年 539名中、103名の女性ガバナー	2013年 クラブの奉仕活動参加を出席要件 に含む 2016年 例会の大幅な柔軟性が認められる 2019年 メークアップ期間の大幅な変更

国際ロータリーの変化(2)

年代	クラブの多様性	主要な変化	2680地区のできごと
1981年～1990年		1985年 「ポリオ・プラス計画」を発表 ポリオ撲滅運動の推進 RI主導型奉仕活動 単年度制から継続性へ 1987年 職業奉仕に関する声明発表 職業奉仕概念の変化	(1970年) 兵庫県単独で1つの地区に 39クラブ 1929名 1987年 地区大会で「第268地区ロータリー 職業訓」を決議 1988年 上郡プロバスクラブ結成
1991年～2000年		1991年 「国際ロータリーの使命」発表 団体奉仕活動の提唱 1992年 社会奉仕に関する声明 社会奉仕基準の改正 1998年 規定審議会をRIの唯一の立法機関とする	1994年 会員数 4246名 1995年 阪神・淡路大震災 地区大会中止 2000年 尼崎中RC設立 ※最後にできた伝統型クラブ 74クラブ 3894名
2001年～2010年	2004年 クラブの合併承認 2010年 Eクラブ承認 (1地区2つまで)	2010年 新世代奉仕(青少年奉仕)が加わり 5大奉仕 となる	2010年 74クラブ 3007名 ※1994年以降、2カ年を除き、会員減少 が続く 2010-11年度 3000人を割る
2011年～2026年	2013年 衛星クラブ承認 Eクラブの制限数をなくす 2016年 クラブ入会金規定を 削除 パスポートクラブを 始め、新しいタイプのクラブ	2011年 「ロータリアンの職業宣言」を「 ロータリアン の行動規範 」に改正 2013年 地区協議会を地区研修・協議会に変更 2014年 「ロータリーの友」電子版発行 地域雑誌の電子化 2015年 ロータリー特別月間を大幅変更	2013年 淡路北脱会 2014年 HYOGOロータリーEクラブ設立 浜坂脱会 2016年 西宮イブニング・神戸モーニング 設立・神戸ハーバー 脱会 2017年 神戸有馬脱会 2019年 神戸西・神戸北合併 明石西・明石南合併 2022年 宝塚・宝塚中合併 2023年 伊丹有明・伊丹昆陽池脱会 2026年 神戸東灘・神戸ベイ合併 尼崎西・ 尼崎中合併

ロータリーの変革

- ・ 1985年(ロータリー創立80周年) 『ポリオ・プラス計画』発表→ポリオ撲滅運動の推進

※プラス⇒はしか・ジフテリア・破傷風・百日咳・結核の主要伝染病

(1995年) **ポリオ撲滅をRIの最優先事項とする**

- ・ 1986年 ロータリアンが100万人を突破

- ・ 1987年 職業奉仕概念の変更

長期計画委員会(後の戦略計画委員会)

- ・ 1989年 **女性ロータリアンを認める→会員基盤の多様性のスタート**

- ・ 1991年 団体奉仕活動の提唱

- ・ 1999年 **平和フェローシップ**

世界8つの**ロータリー平和センター**(日本はICU)で
1,800人以上のフェロー(研究員・専門職)を輩出
平和構築と紛争解決に貢献する人材を育成、
国連、政府機関、世界銀行、NGO、大学等で活躍



ポリオの推移

- 1789年 イギリスで子供の下肢の機能衰退の初めての症例
- 1843年 アメリカ初のポリオ流行
- 1939年 全米小児麻痺財団を設立(フランクリン・ルーズベルト大統領・在位1933年～45年)
- 1952年 アメリカ ポリオ感染がピーク 感染者 57,628人 麻痺が残った感染者 21,269人
死亡者 3,175人

「私は小学生でニューヨーク市内の学校に通っていました。子どもたちは学校に戻ると、車椅子に乗っている子や下肢装具をつけた同級生を目にし、また誰も座っていない席があれば、この席にいた子はもう戻って来ないとわかっていました」(ポリオ:ある米国の物語)

- 1954年 ポリオワクチン開発 翌年から摂取
日本 1960年 大流行(患者数5,606人 1981年以降 発症例なし)
- 1979年 アメリカポリオ根絶宣言
- 1988年 125カ国推定35万件以上の症例



小柴昌敏

2002年ノーベル物理学賞受賞



39歳の時に発症したルーズベルト

ポリオプラスの歩み

西暦	出来事	西暦	出来事
1979	3-Hプロジェクト第一号として、フィリピンの600万人以上の子供にポリオ予防接種を実施	1980	規定審議会が「予防接種によってポリオを根絶する」という立法案を承認 目標年 2005年
1985	「ポリオプラス」プログラムを開始	1988	ポリオプラス・キャンペーン 2億2000万ドル以上を集める⇒世界保健総会「世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)」を開始
1994	西半球のポリオフリーが宣言される 2000年 西太平洋地域 2002年 ヨーロッパ地域	2002	ビル&メリンダ・ゲイツ財団とかかわりを持つ 2007年からゲイツ財団より補助金
2007	規定審議会がポリオの根絶をRIの最優先の目標とすることを承認 2016規定審議会 ポリオ根絶は国際ロータリーの最高の目標であることが承認支持された	2013	ゲイツ財団 ロータリーがポリオ根絶のために集めた資金の2倍を上乗せすることを発表 「End Polio Now:歴史に1ページを刻もう」キャンペーン
2014	東南アジア地域ポリオフリー宣言 2012年 インド ポリオフリー	2020	ゲイツ財団が長期パートナーシップを継続することを発表

GPEI(Global Polio Eradication Initiative)

世界保健機関(WHO) 米国疾病対策センター(CDC)

ユニセフ 後にゲイツ財団も参加



久木田純 元UNICEFカザフスタン事務所長

ポリオ根絶への取り組みで世界銀行総裁賞

,

ポリオプラスの歩み

野生型ポリオウイルスによる症例数

国	2026年 6月1日現在	2025年	2024年	2023年
パキスタン	3	31	74	6
アフガニスタン	4	21	25	6
モザンビーク	0	0	0	0
マラウイ	0	0	0	0
合計	7	52	99	12

- ・過去35年間で99.9%の減少⇒あと一歩
- ・これまでポリオ根絶活動に22億ドル以上を投入

※医療費の削減 世界的なポリオ根絶活動により、
1988～2035年の間に1兆ドル以上の医療・介護コストを削減（GPEIの試算）



会員基盤の多様性 女性会員の増加と活躍

- ・ 1977年 デュアルテ・ロータリークラブ(カリフォルニア州) 女性会員入会
⇒RI定款と標準ロータリークラブ定款に反するとして、翌年国際ロータリーへの加盟を終結させられる 1986年復帰加盟
- ・ 1987年 米国連邦最高裁判所 ロータリークラブが性別を理由に女性を会員として拒否することはできないという判決を下す
- ・ 1989年、シンガポールでの規定審議会で女性会員の入会が認められる。
「ロータリークラブの会員は男性に限られるとするRI定款の要件を削除する。」



フランクJ.デブリン(2000-01年RI会長)

「代表議員の皆さん、私たちが忘れてはならないのは、1905年と1989年はまるで別世界であるということです。従ってロータリーは**移り行く世界に足並みをそろえるべき**だと思います。」

会員基盤の多様性 女性会員の増加と活躍

- ・ **RI理事会の目標 女性会員の割合を30%(現在27.4%) 110力国以上で既に達成**
 - ※ 1988年 会員数 約104万人(女性会員が認められた前の年)
 - 2025年 会員数 約112万人 男性会員 約81万人 女性会員 約31万人
- ・ 1995年 8名の女性ガバナー⇒2017年 539名中103名の女性ガバナー
- ・ 2021年 RI理事会 19名中9名が女性理事
- ・ 2022-23年度 ジェニファー・ジョーンズ氏 女性初のRI会長
- ・ 2024-25年度 ステファニー・アーチック氏 二人目の女性RI会長

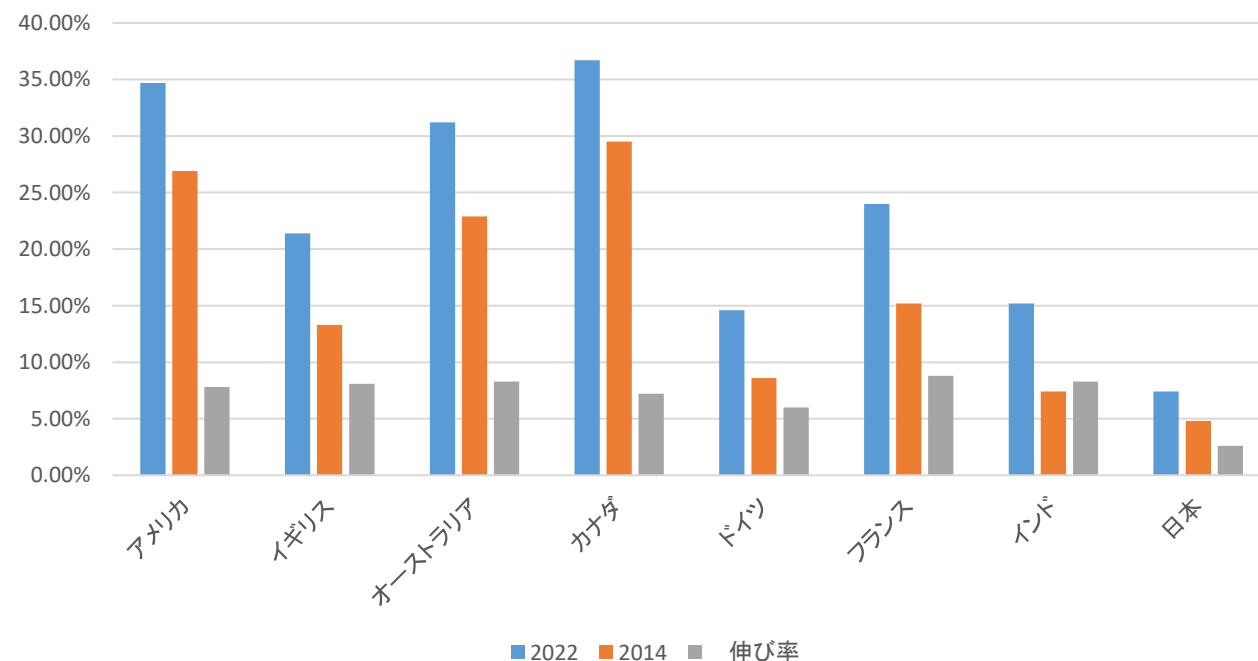
ロータリーは男性の社交クラブ？

- ・ 日本のロータリー 8.5%(ワースト1)
⇒ロータリーを男性社会と考えるベテラン会員
 - ※ワースト2 ベルギー 12.8%
 - ※アメリカ 34% 韓国 24%
- 女性会員の増強に大きく立ち遅れる日本
- 2027-28年度は日本で5名の女性ガバナー

※ジェンダーギャップ指数

日本 118/148 (2025年) 先進国(G7)の中で最低

各国の女性会員の割合の推移



ロータリーの魅力の低下と会員数の減少

ロータリーの魅力の低下

1999-2000年度のラビッツアRI会長は新世紀の幕開けを前に、「ロータリーの衰退が始まっている。不況のせいではない。ロータリーが魅力をなくし、ステータスを失ったからだ」と危機感を訴え、21世紀に向かっでのロータリーの変革を訴えた。

実際、ロータリーにおける会員資格の緩和、一業種一会員制、並びに出席規定の緩和などが、ロータリーの存在としての魅力を低下させ、会員拡大の強調のあまり、「入れていただいたロータリーから入っていただいたロータリー」へと変わってきたという声もある。また。会員数の減少により、財政面も含めてロータリーの基盤である奉仕活動ができないというロータリーも増えてきている。さらに、RI並びにロータリー財団の肥大化によりロータリアン自身がただの歯車になったと懸念する声もある。

ロータリーの会員数の推移

年	アジア	豪州	欧州・アフリカ	南米	RIBI	アメリカ・カナダ
2014	34.3	39	29.7	97	50	36.0
2019	38.7	34	29.5	90	43	33.7
2023	41.2	29	29.2	87	34	29.7

2014⇒2023

+20.1%

−25.6%

−1.7%

−10.3%

−32.0%

−17.5%

Shaping Rotary Future(SRF)構想

2020年 SRF構想発表 ロータリーの新たな構造(管理)モデル⇒2030年より実施計画
現在、豪州とRIBIがパイロット地区

1. 地域化 文化、言語、地理等で世界を20～40の地域にする。
日本は1地域。地域重視の運営体制にする。
2. 簡素化 地域を1500～1600のセクションに分ける。
日本は102のセクションを予定。管理範囲を縮小する。
(20～30クラブで1つのセクション)
3. 複数年化 各地域に3年任期のリージョナルカウンスルを置く。セクションに2年任期のセクションリーダーを置く。



大成建設が描く2030年の世界

国際ロータリー(RI)と日本のロータリー

	RIの考え方	日本の伝統的な考え方
活動の中心	奉仕プロジェクトの実践	例会
会員基盤	多様なリーダー	職業人
職業奉仕の位置づけ	プロジェクトの一つ	職業理念・倫理の重視
奉仕の主体	団体奉仕	個人奉仕

日本の価値観に固執するだけでは、世界のロータリー運動の中で、大きな潮流や変化に取り残され、世界のロータリーの中で孤立していくことが懸念されている。

渋沢 栄一 「論語と算盤」 or ではなくand

俯瞰的視点(Bird's-eye view)に立とう



国際ロータリーはどこへ向かっているのか

□ 基本になるキーワード①

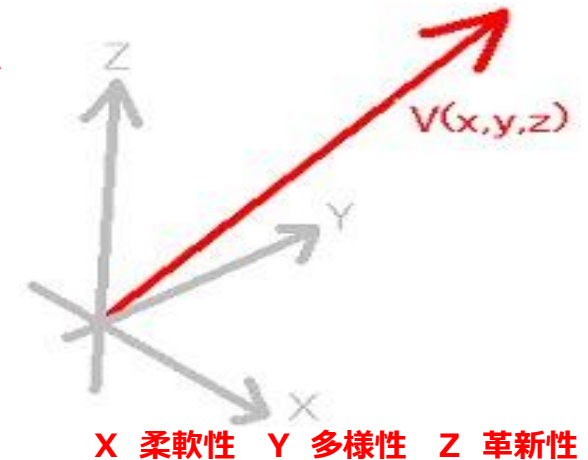
柔軟性・多様性・革新性(DFI: Diversity・Flexibility・Innovation)

- ・柔軟性 例会のあり方
- ・多様性 会員基盤・新しいタイプのクラブ
- ・革新性 様々な改革

This is a changing world: We must be prepared to change with it.

The story of Rotary will have to be rewritten again and again.

世界は絶えず変化している。そして私たちは世界と共に変化する心構えがなければならない。ロータリーの物語は何度も何度も書き換えられなければならない。



□ 基本になるキーワード②

多様性・公平性・インクルージョン(DEI: Diversity・Equity・Inclusion)

D: 誰もが E: 笑顔で I: 居心地の良いクラブ

適応と改革

□ 基本になる考え

クラブは時代に追いついていかなければならない

クラブは時代に適応しなければならぬ

クラブは将来への備えができていなければならぬ

運動も年を経ると、定型化し、先例に固執し、価値がなく、不合理なことが今までそうであったからという理由だけで継続されます。(ポール・ハリス)

□ 変革を妨げる2つの阻害要因

「ロータリー、かくあるべし」という固定観念と教条主義

○ 固定観念 特定の価値観や考え方が凝り固まった状態であり、周囲の状況が変化しても自身の考え方を変えず、他者の意見に耳を傾けない頑固な考えや意識⇒柔軟性の欠如

多様性・公平性といった改革を受け入れようとしない態度

○ 教条主義 状況や現実を無視し、特定の原理・原則に固執する融通の利かない考え方や態度
自分の考えと合わない人物を排除(exclusion)

① ロータリーは個人奉仕

⇒ロータリー運動の拡大で、ロータリーのステージは大きく広がった

⇒個人奉仕の限界

・ 奉仕の機会の拡大 ・ 世界的ネットワーク

個人奉仕と団体奉仕の両輪

適応と改革

② ロータリーは単年度制⇒ロータリー活動の継続性

- ・ 2024-25年度からクラブ、地区、ゾーンレベルの**3年間の段階的なターゲット**と**3年間の段階的な地域計画**を設定するプロセスを承認

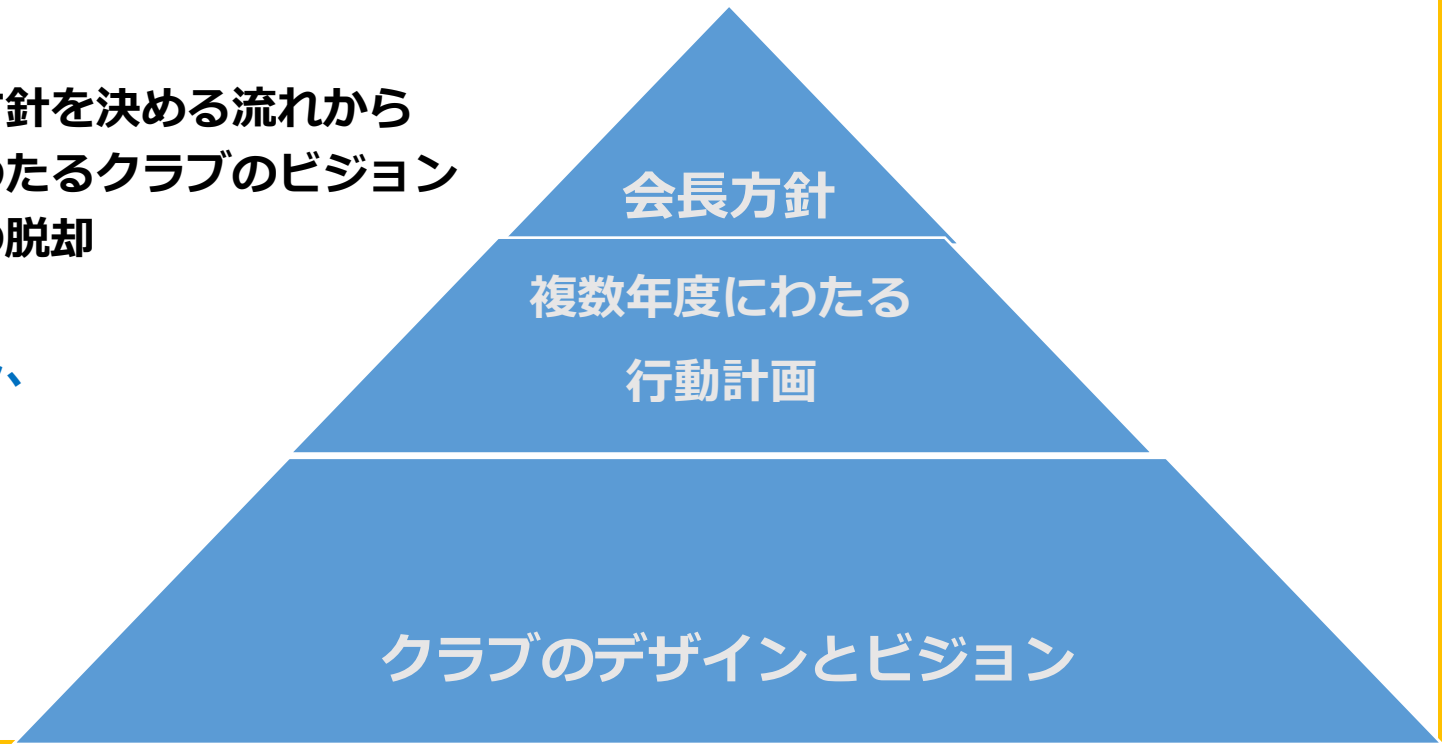
これまでロータリーは単年度制が重視されてきました。地区のガバナーしかり、クラブの会長しかり、いずれもその年度は自らの信念に基づいて運営をします。しかしながら、単年度制による運営にはロータリーの未来像が欠如します。将来を見据えたビジョンを備えなければ、その年度のリーダーの単なる自己満足の実現だけに終わってしまうリスクもあります。今、ロータリーに求められているのは、確かなビジョン、まさにロータリーの未来への絆であります。 2020-21年度 ガバナー月信 戦略計画委員長 矢野記す

今後、ロータリーは単年度ごとにクラブの会長が方針を決める流れから大きく変化する。⇒単年度ではなく、複数年度にわたるクラブのビジョンと行動計画(戦略計画)が不可欠に⇒単年度制からの脱却

⇒クラブ活性化のチャンス

クラブをしっかりデザインし、ビジョンを明確にし、具体的な行動計画を立てる。

持続可能なインパクトを生み出す



適応と改革

③ ロータリーは職業人の集まり

⇒クラブは、**善良さ、高潔さ、リーダーシップ**を身をもって示し、事業、専門職務、職業および/または地域社会で**よい評判**を受けており、地域社会および/または世界において**奉仕する意欲のある成人**によって構成されるものとする(国際ロータリー定款 第5条 会員)

⇒多様なリーダー

ロータリーは職業人を中心とした多様なリーダーの集まり

④ 会員増強は量より質

そう言っていた増強委員長のクラブは会員数が半数以下になった
会員が減少しているのに、時代錯誤 =

量と質の両立

⑤ 職業奉仕の考え方

職業奉仕というと、日本のロータリーでは「職業倫理」が強調され、「商人道徳」の話が中心になるが、果たしてそれで良いのだろうか。

コンプライアンスが重視される時代⇒職業倫理がロータリーの特異性ではなくなった。



CHANGE→CHANCE

G – T(Trouble)→C

変化には困難が常に伴う、その困難を一つ一つ
取り除いていくとチャンスが生まれる

適応と改革

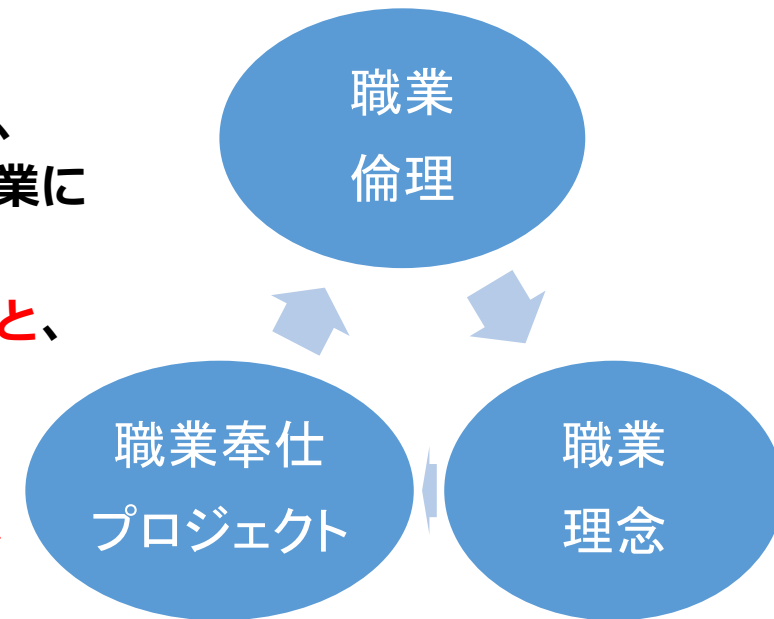
※道徳綱領

1. 職業に対する不断の努力が正しく賞賛されるように心がけ、**自己の職業の尊さを確信**すること。
2. 事業を成功させて、適正な報酬や利益は受けるべきであるが **自己の立場を不当に利用したり、人に疑われる行いをして自尊心を傷つけてまでも利益や成功を求めないこと。**
3. 事業を遂行するにあたっては、他人の事業を妨害しないように心がけ、**顧客や取引先に誠実であり、自己にも忠実であること。**

標準ロータリークラブ定款第6条 五大奉仕部門

- 2 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の**道徳的水準を高め**、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で**奉仕の理念を実践していくという目的**を持つものである。
会員の役割には、**ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。**

新たな職業奉仕の考え方 **ロータリアン個人が職業上の手腕(スキルや知識、経験)を社会に役立てること**



適応と改革

研修システムの変化

トレーニング(training)モデルからラーニング(learning)モデルへ

⇒一方的な研修スタイルから学習者主体の研修スタイルへ



	トレーニング	ラーニング
主体	教える側が中心	学ぶ側が中心
研修のやり方	決められた知識を一方的に教える	対話、体験、振り返りを通して自ら学ぶ
目的	正解を覚える	考える、応用する力を身に付ける

Join Leaders Exchange Ideas Take Action

リーダーよ集え 意見を交換しよう そして行動せよ

学びて思わざれば則ち罔(くら)し 思ひて学ばざれば即ち殆(あやう)し(論語)

教わるばかりで、自分で考えることが少ないと力はつかない。

自分で考えてばかりで、人に学ばないようだと、考えが偏るので危険このうえない。

